



天文ニュース(No.180)

2003年のおもな天体現象 2002年12月26日発行

【1月】

<りゅう座流星群>

3~4日にりゅう座を中心に流星が見られる。1時間に50個くらい。今年は月明かりがないので観測条件はよい。

<月と火星とアンタレスが並ぶ>

28日の早朝、さそり座アンタレス(1等星)の近くで月(月齢25)と火星(1等星)が並んで見える。その東には明るい金星(-4等星)が見える。

<工藤・藤川彗星が肉眼で見える?>

昨年12月14日に熊本県の工藤哲生さんと香川県の藤川繁久さんが発見した工藤・藤川彗星(C/2002 X5)が、1月上旬には、日の出前の東空に明るさ4等級で見え、1月28日に太陽に2770万kmまで近づく。そして、2月末から3月上旬には、日没直後の南西の低空で、明るさ5等級で見えると予想されている。

【2月】

木星の観測好期

2日に木星が、衝といって太陽と正反対の方向にきて、日の入り時に東から昇り、日の出時に西に沈むので一晩中見える。位置は、かに座。光度は-3等星。8月中旬まで夕方の空に見える。

【4月】

<水星の観望好期>

16日に水星(0等星)が、東方最大離角といって太陽から最も東に離れ、夕方の西空に見える。この前後1週間が観望の好期。

【5月】

<小惑星探査機ミューゼス・C打ち上げ>

日本の小惑星探査機ミューゼス・Cの打ち上げが予定されている。探査機は、2005年6月に小惑星1998 SF36に到着し、小惑星を周回しながら科学観測と表面のサンプルを採取し、2007年6月に地球へ帰還の予定。

<水星の太陽面通過>

7日の昼間に、水星が太陽面を通過するようすが日本全国で見える。

明石では、7日午後2時12分に太陽の東北側の縁から入り、太陽と水星が重なった状態で日の入りになる。

明石での日の入りは午後6時49分。観望には、望遠鏡が必要

(注意:直接のぞかないこと。太陽面を白い紙の上に映して見る)

<金星食>

29日の昼間に、金星(-4等星)が月(月齢27)にかくされる金星食が日本全国で見える。

明石では、29日午後1時55分に月の東側の明るい縁にかくれ、午後3時21分に西側の暗い縁から出てくるようすが見える。観望には、望遠鏡が必要。

<金環日食>

31日に、ロシア、北極海、アジアの一部、ヨーロッパの一部で金環日食が見える。日本では見えない。

【8月】

<ペルセウス座流星群>

12~13日にペルセウス座を中心に流星が見られる。1時間に30~50個ぐらい。今年は、月明かりがあるため観測条件はよくない。

<火星の大接近>

27日に火星が、地球に大接近する。火星は、2年2か月ごとに地球に接近するが、距離が接近のたびごとに違う。

今回は5600万kmまで大接近し、見かけの直径が大きく、望遠鏡で見ると表面の様子がよく見える。光度は-3等星。視直径25.1。

今回よりも距離が接近するのは、2287年までない。

【9月】

<中秋の名月>

11日が中秋の名月。明石での月の出は、18時51分。

<しし座流星群>

17~19日にしし座を中心に流星が見られる。1時間に30個ぐらい。今年は、月明かりがあるため観測条件はよくない。

<皆既日食>

24日に、南アメリカ南部、太平洋南部、南極大陸などで皆既日食が見える。日本では見えない。

【12月】

<ふたご座流星群>

12～14日にふたご座を中心に流星が見られる。

2004年1月1日に土星が、衝といって太陽と正反対の方向にきて、日の入り時に東から昇り、日の出時に西に沈むので一晩中見える。

位置は、ふたご座。光度は0等星。